バレイショ間作による青刈り作物の栽培

千田長二・松田昭雄

（岩手県農試九戸分場）

バレイショ――冬作物（麦・菜種）の作付け方式を採る場合は，ダンシャクのような早生種であれば冬作物のまき付けまでの間に青刈り作物の栽培が可能であろうとの見解から，1957年に予備試験を・翌年本試験を行った結果，早生バレイショ＝青刈り作物－冬作物の作付け方式は容易に実施可能であり，雑草の防除・土地の高度利用・地力保全（エロージョン防止・しょう酸態Nの流亡防止）・日焼けあるいは緑化いもの防止などの利点が挙げられ，意義が大きいと思われたので報告する．なお近年畑作地帯では堆・きゅう肥を多く必要としながら，粗飼料あるいは敷わら等を生産しない商品作物が増加している現状にかんがみ一層その意義が深いものを感ずる．

試験方法及び結果

種まき方法はバレイショの茎葉の枯れはじめにうね間に条まきして，ホーまたはクワで浅く土をけずり落しながら覆土する．品種はバレイショはダンシャク・ソバは在来秋ソバ・コンモンベッチは雑（早生，雪印系）・カウピーは雪印系・大豆は農林4号・ヒエは台湾・トウモロコシはエローデントである．その他の供試条件は別表のとおりである．

雑草抑制効果はソバが最大で除草剤（CMU）にほぼ近く，ついでトウモロコシ・ヒエ・コンモンベッチ・カウピー・大豆の順，生草量はトウモロコシ・ソバ・ヒエ・カウピー・大豆・コンモベッチの順であった．

なお10a当りの種子量はトウモロコシ10～12ℓ・大豆10～12ℓ・ヒエ3～3.5ℓ・カウピー10～12ℓ・ソバ13～14ℓ・コンモンベッチ5～6ℓでよいと思われた．

試験成績 その1 （2区平均. 1957）

区名	10a当り種子量	草丈	10a当り生草重	雑草発生程度	抜き取り時（9月16日）の生育状態	備考
	l	cm	kg			
放任	—	—	—	卅	—	8月2日 種まき.
大豆	9.0	56.4	526	++	開花期	生草重は根付き.
ソバ	12.6	61.0	960	+	終花～結実始	無肥料
ヒエ	3.6	65.2	1,272	+	出穂期	

試験成績 その2 （3区平均. 1958）

区名	10a当り種子量（薬品）	草丈	10a当り			0.92m²当り		刈取り時（9月17日）		備考
			生草重	DPP	FE	雑草重	比	生育状態	被覆度	
		cm	kg	kg		g				
放任	—	—	—	—	—	1,213	100	—	—	7月31日種まき.
除草剤（CMU）	75g（成分）	—	—	—	—	92	8	—	—	無肥料.
ソバ	14.4ℓ	77.5	1,532	16.9	172.6	132	11	終花～結実始	最大	（検定）
コンモンベッチ	5.4	50.8	354	6.0	37.9	403	33	開花期	小	雑草重F＝6.86**
カウピー	12.6	50.8	704	10.6	73.9	422	35	〃前	中	
大豆	10.8	61.6	400	12.8	67.5	521	43	〃期	〃	
ヒエ	3.8	65.0	766	4.6	79.7	404	33	出穂始	〃	
トウモロコシ	10.8	148.0	2,402	9.6	252.2	277	23	抽雄期	大	